

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第50週 2025年12月8日（月）～2025年12月14日（日）2025年12月18日作成

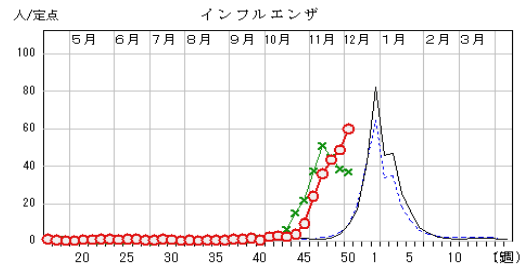
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）インフルエンザ

第50週の報告数は3060人で、前週より575人多く、定点当たりの報告数は60.00であった。

年齢別では、10歳未満（1665人）、10～19歳（857人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、壱岐保健所（103.00）、長崎市保健所（72.73）、佐世保市保健所（71.14）であった。

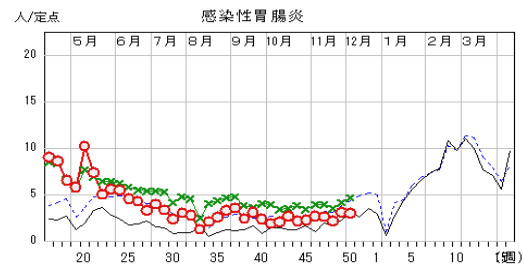


（2）感染性胃腸炎

第50週の報告数は94人で、前週より3人少なく、定点当たりの報告数は3.03であった。

年齢別では、3歳（14人）、1歳（12人）、10～14歳（12人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（7.50）、長崎市保健所（7.00）、西彼保健所（5.33）であった。

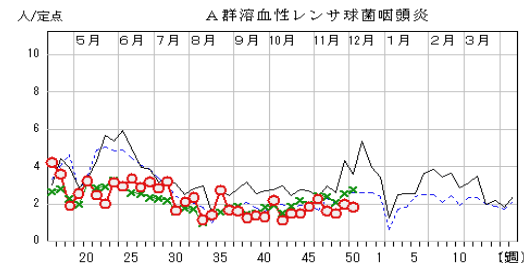


（3）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第50週の報告数は56人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は1.81であった。

年齢別では、10～14歳（15人）、4歳（9人）、8歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（7.67）であった。



○ 当年（長崎県） — 前年（長崎県）
× 当年（全国） - - 前年（全国）

※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位3疾患の概要

【インフルエンザ】

第50週の報告数は3,060人で、定点当たり報告数は60.00となりました。県内では第47週にインフルエンザ流行警報が発表され、4週続けて警報レベルの報告数となっています。地区別では10保健所のうち7保健所が警報レベル、2保健所が注意報レベルの報告数となっています。

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。

今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】

第50週の報告数は94人で、定点当たりの報告数は3.03でした。地区別にみると、佐世保地区（7.50）、長崎地区（7.00）、西彼地区（5.33）は他の地区より多くなっています。例年冬期に患者数が増加する傾向にあります。今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第50週の報告数は56人で、前週より5人少なく、定点当たりの報告数は1.81でした。地区別では、県南地区（7.67）が他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

☆トピックス：海外渡航の際は、感染症に注意しましょう

年末年始の長期休暇を利用して海外に出かける方の増加が予想されます。海外では、日本に常不在の感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

●厚生労働省ホームページ（海外へ渡航される皆様へ）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou18/index_00003.html

●厚生労働省検疫所ホームページ（FORTH）

<https://www.forth.go.jp/index.html>

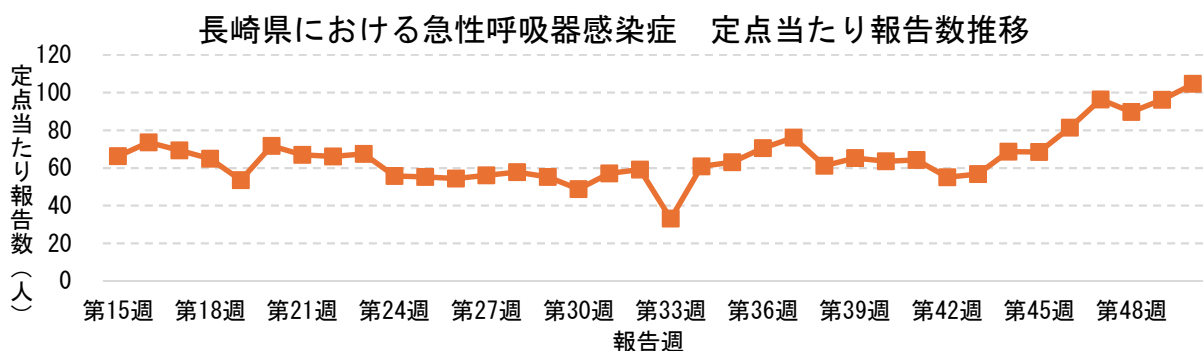
☆トピックス：急性呼吸器感染症（ARI）に注意しましょう

急性呼吸器感染症（Acute Respiratory Infection:ARI）とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎）または下気道炎（気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症などが含まれます。法律の改正により、令和7年4月7日からARIが5類感染症に位置づけられ、県内では51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されています。

県内では10月末から患者数が増加傾向にあり、第50週の定点当たり報告数は「104.63」でした。インフルエンザをはじめとするARIの予防には、手洗いやマスク着用を含む咳エチケットなどの基本的な感染対策が有効です。ARIの中には、高齢の方や基礎疾患をお持ちの方が感染すると重症化するものもあります。場面に応じた対策を心がけましょう。

●厚生労働省 令和7年度 今冬の急性呼吸器感染症（ARI）総合対策

<https://www.mhlw.go.jp/stf/index2025.html>



☆トピックス：インフルエンザが流行しています

2025年第50週（12月8日～12月14日）の患者報告数は3,060人で、定点当たり報告数は60.00となりました。11月27日に**インフルエンザ流行警報**が発表され、4週続けて警報レベルの報告数となっています。

地区別にみると、10保健所のうち7保健所で警報レベル、2保健所で注意報レベルの報告数となっています。

年代別では、10歳未満（54%）、10代（28%）が多くなっています。

今後もさらなる患者数の増加が懸念されます。手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

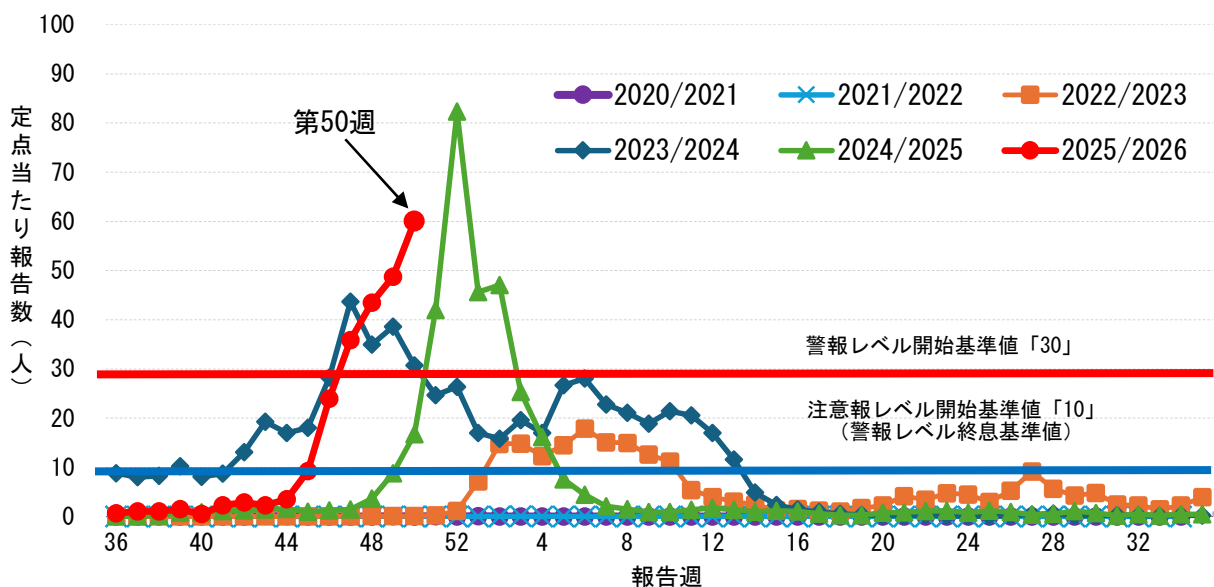
【参考】厚生労働省 「インフルエンザ総合ページ」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/infuenza/index.html

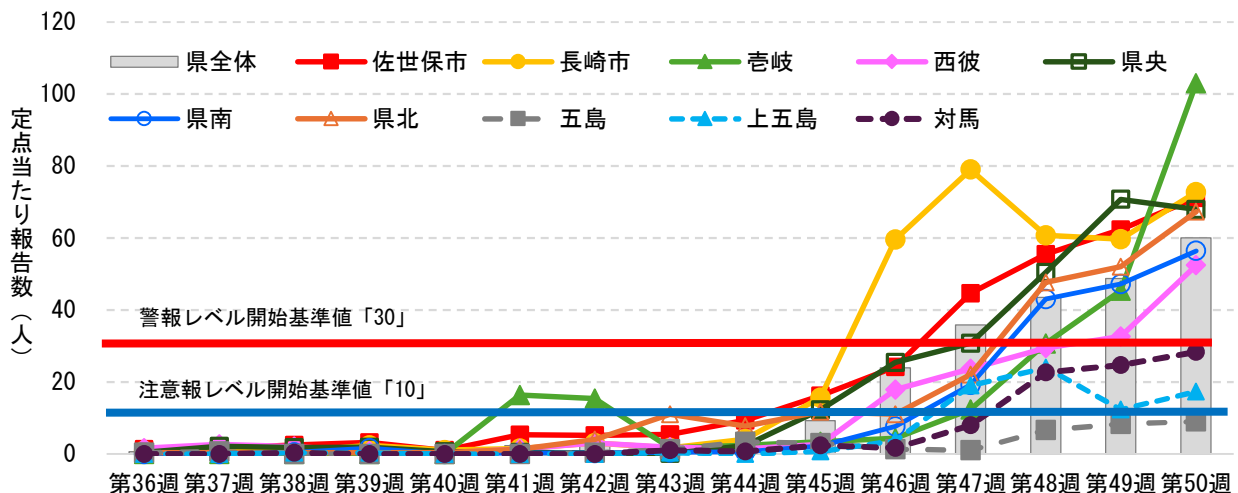
【参考】長崎県地域保健推進課 「2025/2026シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」

<https://www.pref.nagasaki.jp/object/kenkaranooshirase/oshirase/744804.html>

長崎県におけるインフルエンザ報告数の推移



インフルエンザの保健所別定点当たり報告数推移



インフルエンザの年代別患者報告数

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上
報告数(人)	1665	857	137	141	111	60	48	27	14
報告割合(%)	54.4	28.0	4.5	4.6	3.6	2.0	1.6	0.9	0.5

◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 男性（70代・1名） 女性（80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 女性（20代・1名）
 3類感染症：報告なし
 4類感染症：報告なし
 5類感染症：急性脳炎 患者 男性（20代・1名）
 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 女性（60代・1名）
 侵襲性インフルエンザ菌感染症 患者 女性（10歳未満・1名）
 破傷風 患者 男性（70代・1名）
 百日咳 患者 男性（30代・1名、60代・1名） 女性（60代・1名、70代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況

(第45～50週、11/3～12/14)

疾患名	定点当たり患者数					
	45週	46週	47週	48週	49週	50週
	11/3～	11/10～	11/17～	11/24～	12/1～	12/8～
インフルエンザ	9.22	23.92	35.84	43.45	48.73	60.00
新型コロナウイルス感染症	0.76	1.14	0.75	0.69	0.33	0.51
RSウイルス感染症	0.71	0.81	0.29	0.13	0.16	
咽頭結膜熱	0.48	0.39	0.90	0.58	0.42	0.48
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.84	2.26	1.61	1.48	1.97	1.81
感染性胃腸炎	2.32	2.71	2.65	2.16	3.13	3.03
水痘	0.19	0.06	0.06	0.35	0.26	0.23
手足口病	0.26	0.32	0.39	0.48	0.45	0.16
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.58	1.81	1.68	1.52	1.23	1.74
突発性発しん	0.29	0.35	0.39	0.23	0.13	0.39
ヘルパンギーナ	0.03	0.06				0.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03			0.03	0.03	0.03
急性出血性結膜炎			0.25			0.13
流行性角結膜炎	1.00	2.00	1.63	1.75	1.13	1.25
細菌性髄膜炎						0.08
無菌性髄膜炎		0.17		0.08		0.08
マイコプラズマ肺炎	0.75	0.83	0.83	1.00	0.58	0.67
クラミジア肺炎（おたふく病は除く）				0.08		
感染性胃腸炎（ロタウイルス）					0.08	
急性呼吸器感染症（ARI）	68.35	81.33	96.33	89.73	96.14	104.63

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況

(第50週、12/8～12/14) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾 患 名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	60.00	71.14	72.73	103.00	52.40	67.88	56.40	67.33	9.00	17.33	28.33
新型コロナウイルス感染症	0.51	0.71		2.33	0.40	0.38	1.00	0.33			1.00
RSウイルス感染症											
咽頭結膜熱	0.48		0.17	0.50	0.67		1.33	3.50			
A群溶血性インフルエンザ菌咽頭炎	1.81	1.00	0.83	2.00	2.33	1.40	7.67	2.00			1.00
感染性胃腸炎	3.03	7.50	7.00		5.33	0.20		2.50			
水痘	0.23	0.25	0.33			0.80					
手足口病	0.16		0.50		0.33	0.20					
伝染性紅斑（リンゴ病）	1.74	3.75	0.83		1.33	1.80	2.00	6.50	0.50	0.50	
突発性発しん	0.39	1.00	0.67		0.33	0.20	0.67				
ヘルパンギーナ	0.06		0.17			0.20					
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.25									
急性出血性結膜炎	0.13		0.33								
流行性角結膜炎	1.25		1.00		1.00		5.00		1.00		
細菌性髄膜炎	0.08					1.00					
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎	0.67	2.00	1.00		1.00		1.00				1.00
クラミジア肺炎（オウム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	104.63	138.14	159.82	108.33	118.40	83.63	72.80	95.33	9.00	50.33	65.67